

令和4年度第5回江東区外部評価委員会

1 日 時 令和4年8月12日(金)
午後6時30分 開会 午後7時30分 閉会

2 場 所 文化センター5階 第6会議室(オンライン併用)

3 出席者

(1) 委員

吉 武 博 通	竹之内 一 幸
中 山 由 紀	今 村 保 雄
河 野 博 子	河 上 牧 子

(2) 事務局

副区長	押 田 文 子
副区長	大 塚 善 彦
政策経営部 企画課長	大 塚 尚 史
政策経営部 財政課長	保 谷 俊 幸
政策経営部 計画推進担当課長	高 須 英 輔

4 傍聴者数 1名

5 会議次第

1. 開会

2. 議題

令和4年度外部評価結果報告書(案)について

3. その他

4. 閉会

6 配付資料

次第

配席図

- ・資料1 令和4年度外部評価結果報告書（案）

午後 6 時30分 開会

○吉武委員長 それでは、ちょうど定刻ですけれども、第5回の外部評価委員会を開会したいと思います。

委員の皆様におかれましては、大変御多忙のところ、お盆休み直前ということでございますけれども、御出席いただきましたことを感謝申し上げます。

今日は1名の傍聴の方がいらっしゃいます。既に席についておられるということでございます。よろしくお願いいたします。

初めに、お手元の資料の確認をお願いします。事務局より事前送付されております会議次第に配付資料の記載がございます。お手元にそろっているか御確認ください。よろしいでしょうか。

それでは、今日の議題は、令和4年度外部評価結果報告書(案)についてでございます。この案でございますけれども、第1回外部評価委員会で各委員に御了承いただきました「外部評価委員会の運営について」において、正副委員長で評価案を作成の上、各委員に提示するとされておりますことから、委員の皆様方から御提出いただきました外部評価シートに基づいて、委員長の私と竹之内副委員長とで調整の上、取りまとめたものでございます。とはいいながら、事務局が本当にうまくまとめたいただいたということでございます。年々よくなってきているなというふうに感謝しております。

報告書(案)につきましても、既に皆様にも御覧いただいているところでございますけれども、改めてポイントだけ事務局から御説明いただければというふうに思います。それでは、よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、事務局、企画課長の大家でございます。

まず、説明に入ります前に、本日、最後の委員会でございますので、本区の両副区長も出席させていただいてございます。押田副区長と、それから大家副区長でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、令和4年度外部評価結果報告書(案)について説明させていただきます。

お手元の資料のまず表紙をおめくりいただきますと、令和4年度外部評価についてということで、吉武委員長の文章を掲載しておりますが、この部分については、主に2点、お書きいただいております。

主な点について申し上げますと、そちらの5段落目にありますように、評価を通じて施策の実効性を高めていくためには、外部評価委員、外部評価モニター、主管・関係部課の

三者が、それぞれの役割を果たしながら、施策の目的・成果等を多面的に分析し、確認することが大切であること。

また、5段落目には、外部評価を含む行政評価は、誰のために何を行うべきかを区民に分かりやすく説明し、長期計画の着実な推進、確実な区政運営の実現を図ることを目的としていること。

そして、7段落目で、今後とも行政評価制度を適切に機能させ、限られた財源を有効に活用しつつ、行政課題に的確かつ迅速に対応してほしいとまとめていただいております。

続きまして、1ページを御覧ください。1ページの1. 外部評価委員会についてでございますが、もう1枚おめくりいただいて、2ページ以降、こちらで外部評価委員会の概要についてまとめております。なお、こちらの記載事項につきましては、第1回の委員会でお示した資料などを基に作成しておりますので、後ほど御確認いただければと思います。

次に、5ページを御覧ください。5ページ、2. 総評ですけれども、この部分についても、主に吉武委員長にお書きいただいております。

1ページめくっていただくと、6ページのところから総評のところ、具体的な表記がございますが、大きく分けると、(1)施策別評価の総括、(2)計画推進に向けた課題、(3)実効性ある評価に向けての3点にまとめていただいております。

まず、(1)では、1行目にありますように、「S、A、B、Cの評定だけで計画の実施状況を評価することは難しいが、敢えて評定のみを基に整理すると次の通りになる」として、全てA評価以上になっているもの、B以下が過半となったもの、A以上が過半を占めているものの3つに区分して分析をしていただいております。

また、各委員の評価の理由で特に多かった意見から、(1)の真ん中あたりのところに丸が4つ並んでいるところがございますけれども、成果や課題の可視化と指標の妥当性検証、それから、行政の取組を区民へ効果的に伝える工夫、課題解決における協働や広域連携の推進、ICTの活用・DXの推進の4つに整理していただいております。

さらに、外部評価モニターの御意見・質問には、施策に対する区民の期待や区の取組への理解度など、重要な気づきを与えるものが含まれ、委員の評価の際に参考としていただいております。外部評価モニターへの謝意が示されてございます。

続きまして、7ページに移って、(2)計画推進に向けた課題についてです。まず、①ですが、目指す姿・目標や工程の具体化では、計画行政を推進していく上では、到達点の具体化、現状の水準把握と分析、現状と到達点とのギャップを埋めていくための工程の明示が

必要である。また、工程を考える上で、区として何をなすべきか、区固有の課題を明確化することも重要となる。これらの取組は、分かりやすい指標の設定につながるものであり、行政評価システムをより有意義なものにするためにも取組を進めていただきたいと御意見をいただいております。

次に、②ですが、地域協働の推進では、江東区では区民の約8割が集合住宅に居住していることから、マンション（事業者、管理組合）との協働や、地域企業との協働について多様な手法を検討していくことを強く期待したい。なお、協働を推進する上では、区と協働に関わる区民等それぞれの果たすべき役割や責任を明確にしながら取り組んでいくことが肝要であるとの御意見をいただいております。

続きまして、③施策推進におけるICTの一層の活用では、一層のICT利活用を求める意見・提案が多くあり、具体的提案もなされたが、いずれも既存の技術で実現できるものであり、早期の実現を期待したい。なお、ICTの一層の活用については、内部事務や窓口サービスにおけるICT化についても併せて積極的に推進していく必要があるとの御指摘をいただいております。

8ページを御覧ください。8ページの④のところでは、行政の取組の効果的な発信では、区民の求めている情報、区民に伝えるべき情報を構造的、体系的に整理し、分かりやすく伝えていくことが重要であること。また、本課題については、外部評価における各資料にも見られており、政策経営部と各施策の主管部が連携し、施策の全体像を簡潔でありながらも、読み手が具体的なイメージを持てるよう、限られた紙面の中で一層の工夫と改善を行っていただきたいと御意見をいただいております。

最後に、8ページの(3)のところでございますが、実効性ある評価に向けてです。行政需要に的確に対応するためには、誰に対して具体的に何をなすべきか、何を最終的な成果とするかといった考え方を、組織・職員間で共有することが重要であるとしてございます。その上で、最後にありますように、評価を通して区政運営のさらなる高度化に結びつけることを期待するとまとめていただいております。

以上までが総評となります。

続きまして、11ページを御覧ください。11ページ以降については、各施策の評価を掲載してございます。11ページには、まず、評価基準を掲載してございます。

1枚めくっていただきますと、施策1がございまして、施策1を例として御説明しますと、12ページから15ページのシートを活用して、外部評価委員と区職員との間で質疑応答

を行っております。

その結果、外部評価委員による評価が16、17ページとなっております。1の取組方針の評価から2の施策の評価までを評価項目ごとにまとめております。評価については、11ページに記載しておりますとおり、S、A、B、Cの4段階でございます。

また、欄外に外部評価モニターの評価をまとめておりますが、詳細は75ページの4.資料以降に、施策ごとにそれぞれの内容を記載しておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

また、表の中にア、イ、ウなどの表記がございますが、こちらは外部評価委員を指しているものでございまして、委員の方は6名いらっしゃいますので、アからカの表記としてございます。

最後、ちょっとページが飛びますが、75ページ以降です。75ページ以降については資料となっております。76ページには、外部評価モニターについて、役割、応募状況、出席状況を記載し、77ページ以降には、それぞれの施策についての外部評価モニターの評価と評価理由を掲載してございます。

また、95ページには、外部評価委員会の設置要綱を記載してございます。

説明は以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。非常に分かりやすい御説明を簡潔にいただきまして、ありがとうございます。

議論する前に、後でまたお伝えすることになりますけれども、公表するときは、これ、全て公表することになるんですね。「未定稿」と書いている外部評価モニター意見一覧とか、あるいはア、イ、ウの評定とかコメントについても、今日、今御説明いただいた全てがホームページ等々で公表されるというふうに理解してよろしいでしょうか。

○事務局 事務局、企画課長の犬塚です。今委員長がおっしゃったとおりです。この後で、誤字等については再度確認をさせていただきますけれども、その上で、評価報告書として全て公表させていただきます。

○委員長 ということですね。分かりました。ですから、ア、イ、ウで、どの委員が何を言ったかということは分からないけれども、しかし、それぞれアの人がこういう評価だったということも分かる形になるという。未定稿というところは、「未定稿」というのを取って公表すると。こういうことになるわけですね。

○事務局 はい。そのとおりです。

○委員長 分かりました。どうもありがとうございました。

委員の皆様、今の犬塚課長からの御説明でございますけれども、何か御意見、御質問等々ございますでしょうか。どなたでも結構でございます。ここはこういうふうに変えたほうがいいんじゃないかというようなこと等があれば、おっしゃっていただければと思います。

○委員 頂いた資料を拝見しまして、1点だけ、今御説明いただいたところで気になっているところがございます。新しくいただいたページだと9ページになっていまして、9ページ以外にも見出しの目次の中にもあったんですけども、例えば9ページですと、1、施策別評価の総括という目次がタイトルがあって、黒い四角があって、黒丸が4点ありまして、「ICTの活用・DXの推進」という言葉がありまして、このDXというのは、評価、評価とかをやっている我々とか行政の皆さんだと割と分かりやすいと思うんですけども、一方、その前の説明にはDXに、この辺がDXのお話だなんて該当するところはあるんですけども、DXの推進というのが、DXと書かれているだけで、DXがその後どういうふうな、どこの部分に該当するのかがちょっと分かりにくいんじゃないかなという印象を持っています。

9ページに書かれているのと、あと、6ページの白丸に「DXの推進」と書いてあって、それ以前だと、目次にたしかあったかなと思うんですけども、このDXの推進が何かというのが、区民の方が見て分かるのかなというところで、この点、ちょっと疑問に思っております。ただ、推進していくということなので、そこは明確にDXが何を指しているのかというのが分かるような表記になるともっといいのかなという印象を持ちました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。確かにそうですね。これ、ICTの活用とDXの推進って、実は次元が全然違うんですよ。DXというのはまさにICTを利用するんですけども、構造改革なんですよ、実は。だから、そういったことをうまく説明するようなことがもう少し必要かもしれません。今の御指摘、非常に大事なことです。区民の方々に唐突感があるかもしれませんから、これ、少し説明を加えましょうか。

総評の3ページでしたっけ。6ページ、7ページ、8ページが実は大事で、特に9ページの総評（概要）というのは、それほど実はあんまり、この総評さえあれば、これ、実はあんまりなくてもいいのかなと思うんですけども、まず、6、7、8のところ、ICTの活用・DXのところ、DXのところをもう少し、DXは何なのかということも含めてもうちょっと言及したほうがいいかなと。その上で、先ほどのおっしゃられた9ページ

のところが表記も少し考えるということだろうと思いますけれども、そういうことでよろしいでしょうか。

○委員 ぜひそれをお願いいたします。

○委員長 分かりました。実はDXについて書いたものがありますので、それもお渡ししますので、DXというものの定義だとか、そういうことも含めて、区民の方にももう少し分かるように表記を考えましょう。よろしいでしょうか。

○事務局 企画課長です。ありがとうございます。それでは、委員長から資料を提出いただけるということですので、それを踏まえて事務局でまた案を作りまして、委員長に御確認をいただく形を取らせていただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○委員長 まさに日本の行政が著しくデジタル化が遅れているということは、いろいろなデータでも明らかでありますし、私も委員会の中で申し上げたかもしれませんが、例えば、主要都市でITを担当する人間というのが、例えば東京都を見ると、物すごく少ないんですね。シンガポールだとか、ほかの世界の主要都市の行政の中でITを担当する人間って本当に少ないんですよ、日本は。だから、ITというものに本気で行政が取り組んでこなかったということが言われていまして、この辺りのところを少しきちんと説明していくのと、ICTの活用とDXって必ずしも同じものではないので、DXというのはまさに業務の在り方を含めた構造改革なんだという視点を少し考えたほうがいいかなと思いました。

委員、どうもありがとうございます。極めて本質的なことでしたので、少し事務局と練って、また御報告したいと思います。ありがとうございます。

そのほかいかがでございますでしょうか。よろしいでしょうか。

実は私、竹之内先生も比較的長いかもしれませんが、これ、最初の頃、かなり委員長の挨拶、もしくは総括のところも相当私が実は手を入れていたんですね、初めの頃。こういうふうにしたほうがいいとかって言って、かなりやっていたんですけども、実は今回ほとんど事務局が自らやっていたいて、こういう評価をすることの意味なんですけれども、事務局の方々の、職員の皆さんたちの、能力なんて言ったら何か上から目線で恐縮ですが、物すごく成長しているという感じがします。ですから、本当に私があまり手を出さなくても、ある程度のところまでまとめていただけるというふうになってきたので、これが実はこういう評価委員会を立ち上げて、そして、我々がいろいろ事務局の方々とキャッチボールしていることの大きな効果だというふうに思っております。そういう意味で、かなりクオリティーがどんどんよくなってきたかなというふうに思っておりますけれども、

もし何かあれば、ほかにこの辺変えたほうがいいんじゃないかというのがあったら、いかがでしょうか。

あと、委員の皆様方に、今日それぞれの総括コメントを、今年度の総括コメントをお一人ずつお願いしようと思っておりますけれども、いかがでしょうか。その前にこの評価書、報告書についてよろしいでしょうか。

それでは、さきほど委員からお話があったところ、DXのことについては、少し事務局とも工夫をして整理をして、こういうふうに変えましたということをもたまたメールでお知らせしたいと思います。それ以外に、誤字・脱字とか、そういった細かい部分につきましては、私と事務局とに御一任いただきたいというふうに思います。委員の先生方からいろいろいただいたことを、こういう形でまとめさせていただきましたので、最終的には、先ほどのDXの問題と、それから、それ以外にもう少し表現とか、さらに練り上げていきたいというふうに思っておりますので、そのことにつきましては御一任いただければというふうに思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、特に今日、報告書についてはこういう形でまとめさせていただきたいと思います。今後のことも含めて、企画課長から御説明いただけますでしょうか。

○事務局 企画課長でございます。どうもありがとうございます。本日、報告書をまとめていただきましたことを受けまして、行政評価の今後のスケジュールについてお伝えいたします。

この報告を踏まえまして、区としての最終評価を9月にまとめ、各部はそれに基づき予算要求を行ってまいります。来年度予算を含めた行政評価結果については、来年度の第1回本委員会において事務局より御報告させていただければと存じます。

また、報告書につきましては、この後、本日御意見いただいたところ等を踏まえた修正を行った後に、9月に区議会への配布とホームページへの掲載をさせていただく予定でございます。また、10月の区議会所管委員会でも、こちらのほうを報告させていただきます。

この外部評価委員会ですが、事務局としては、来年度も引き続き委員の皆様方に外部評価委員をお願いしたいと考えてございますので、御協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

なお、来年度は、長期計画前期期間における外部評価最終年度となるため、総括の機会を別途設けさせていただく可能性がございます。詳細につきましては、追ってまた調整させていただければと考えてございます。

私からは以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。

今の御説明で特に御質問とかございますでしょうか。よろしいでしょうか。来年もこの6人で引き続きチームを組んでやらせていただくということでございますので、またよろしく願いいたします。

それでは、令和4年度の外部評価結果報告書についての審議はこれで終了いたします。

今日の議題は以上なんですけれども、来年度も引き続き当委員会を実施いたしますので、今年度の今日は区切りだということでございますので、委員の皆様からお一言ずつコメントなりを頂戴いただければというふうに考えております。

それでは順番に、副委員長よりお願いいたします。

○竹之内副委員長 吉武委員長、本当に御苦労さまでした。いろいろと御苦労をおかけしたと思います。改めまして御礼を申し上げます。

それから、外部評価委員の皆様方も積極的に御協力いただきまして、大変ありがとうございました。

また、この委員会ではいつも外部評価モニターの区民の皆さん方が積極的に参加していただきまして、なかなか熱い意見を示していただいておりますけれども、区民の皆様方の江東区に対する情熱と、それから、区職員の皆さん方の、その区民の熱い思いを受け止める姿勢というものに、私、いつも感動しておりますけれども、こういう作業というのは、私も2年目ということで、委員のほうも徐々にこういうものに慣れるといいますか、バージョンアップしていくというのと同時に、やはり職員の皆様方も同時にバージョンアップされて、いろいろな意味で積極的にいろいろなことをお考えになっているんだなということ、私、受け止めさせていただいております。

実際、委員のほうは職員の皆様方に気軽に質問し、それから、我々の思いを全て申し上げておりますけれども、職員の皆様方からすれば、我々はもっといろいろなことを考えて大変なんだというふうなことも十分私分かっているつもりでおります。しかしながら、これからも江東区をよりよくしていくために、我々も遠慮なく発言させていただきますし、それから、職員の皆様方も、我々に申し上げたいこととか伝えたいということがありましたら、積極的にお話しいただいて、相乗効果をもって、よりよい外部評価を行っていただければいいなど。このように思っております。

随分先のことになりますけれども、また来年度、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○委員長 どうもありがとうございました。続きまして、お願いいたします。

○委員 まずは事務局の皆様、今年もいろいろとありがとうございました。御礼申し上げます。

今年、私はB班ですけれども、B班の施策の中で、複数の施策で課題としてあがったのが、ICTの利用に関することだったように思います。これに関して、私は積極的に利用すべきという結論で評価をさせていただきました。

ただ、母子保健の施策評価では、両親学級のオンライン開催について質疑応答で質問をさせていただいたんですけれども、それ以外の取組のオンライン導入については質問できていなかったのが、最終的にどのような結論にしようかというところで迷いもありました。ゆりかご面接ですとか訪問指導などにオンラインを導入すべきと結論づけると、きっと現場の方からは、対面じゃないと分からないこともあるんですよとか、家に行って家の様子とか赤ちゃんの様子を見るのが大事なんですよとずっと言われるかなと思いつつながら、どういう結論にしようか、非常に迷って評価をしました。

ただ、そういう行政側の一方的な思いだけで、保健所に来てくださいとか、家に訪問させてくださいということのみだと、これからデジタルネイティブの世代が出産、子育て世代になっていく中で、やはりその世代のニーズにいずれ合わなくなっていくのではないかなと思いつつしたので、最終的には一つの選択肢として積極的に利用すべきという結論にさせていただきました。

オンラインの導入などは現場の声などもあっていろいろ難しいところもあると思うんですけれども、やはりコロナをきっかけとして急速に進んだオンラインでのコミュニケーション、今日もオンラインでやっていますけれども、こういうオンラインのコミュニケーションというのは、コロナ禍が終わっても、コロナ前に戻ることはないと思いますので、やはり全庁的に進めていただきたいというのが、今回の一連の評価を通した私の結論となっています。

最後に少しだけ申し添えさせていただきました。本当に事務局の皆様、委員の皆様、今年も本当にお疲れさまでした。また来年もよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長 どうもありがとうございました。非常に私も賛同します。ありがとうございました。

続いて、お願いできますでしょうか。

○委員 報告書（案）の総評ですけれども、非常にうまく全部カバーして書かれていて、すごく納得いたしました。ありがとうございました。

私からも、事務局の皆さん、それから、今日出てこられていないですけれども、各所管部の皆さんに、心から御礼申し上げたいと思います。

恐らく事前資料の要求というのは、私が一番多かったかもしれません。大変な思いをさせてしまったのは、少し申し訳なく思っています。すみませんでした。ただ、やはりほかの委員の方からもあったように、A3判の資料2枚だけで非常に膨大な江東区の仕事を経網羅して把握するというのは難しい面もございまして、あれこれ考えると、やっぱりあれも知りたい、これも知りたいとなりました。できれば現場を見られればいいのか、いろいろなことを思いながら、評価しておりました。

そういうこともありまして、私たちの外部評価も大切ですが、それとともに、担当部、所管部の皆さんと企画課の皆さんがされる内部評価がまず大事じゃないのかなと思いがら、改めて報告書（案）を読んでおりました。ここに設けられた指標というのはすごく限定されたものですので、それで代表して全てを評価することは難しい。その評価、指標はあくまで例示であるとした上で、区の職員の皆さんが、自ら関係する全てのさまざまな仕事を見直して、こんなふうにもっとやればよかったとか、こんな工夫をすればもっとよくなるんじゃないかと考えて、改善に役立てていくきっかけに外部評価がなればいいのかと思われました。

先ほどの先生のコメントと重なるところがあるかもしれませんが、私はやっぱり江東区、今までどちらかといったら下町の区域であると捉えていたのですけれども、今回の委員会に参加して、その感覚は改めなければならないと思われました。例えば豊洲地区には、集合住宅が増えている。そういう状況の変化のなかで、やはり孤立化みたいなものに対してどう対抗していくか。区としての力をどうやって発揮するか。区としての力を発揮するためには、どういう手段、手法が必要なのかと考えることが、すごく大事になってくると思います。

そういった問題意識を、既に持っていらっしゃるということは分かっておりますけれども、さらにお考えになって、どんどんチャレンジしていただければうれしいなと思えます。

私からは以上でございます。本当にありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。

それでは、委員お願いいたします。

○委員　今回は事務局の皆さん、それから、全体をおまとめいただいた委員長の吉武先生、お疲れさまでございました。ありがとうございました。

私の感想としては、今回扱った分野というのは、特に環境であるとか、緑の中の都市という部分を中心にとすると、非常に江東区は文化、歴史、自然資源が豊富だということを改めて痛感いたしました。自然というときに、通常、里地里山とか、山の中とか、本当の大自然ではなくて、江戸の昔からの都市、それからまちの空間で自然再生を行ってきたということで、川文化をベースにして、緑のネットワークを育てられたということで、それが新しいスポーツ振興にもつながっていますし、今までの先人というか、区役所の職員の方々の努力が今実ってきているのではないかと思います。

というのは、私、前に、個人的なことになりますが、1979年に読売新聞社に入社しまして、江東支局というのは錦糸町になるんですが、そこは江東5区を担当してまして、最初の2年間江東区役所にもかなり足しげく通った記憶があります。その後2年間はいわゆるポリスレポーターとして江東5区を中心に歩き回っていたわけですが、はっきり申し上げて、当時は墨田区、江戸川区は結構きらきら光るという感じで先進的だったんですが、江東区はそんなにさえなかったんですね。これ、言っていないかどうか分からないんですけど、私の印象としてはそうだったんですね。ところが、それが見事にそれを凌駕するというか、本当に努力されてここまで引っ張ってこられたということに、非常に今回特に感動いたしました。

ただ、ちょっと1つ申し上げたいのは、手を緩めると、すぐにそうした成果、今までの成果というのがなくなってしまうということがあると思うんですね。例えば、最近ちょっといろいろ治水というか、防災・減災の取材なんかをしまして、埼玉県東部のある自治体で川の自然と緑を守る会というのがありまして、それが川に親しめて散策とか釣りができる公園の整備というのを自治体に要望したところ、公園はたくさんあるんだけど、ほとんど利用されていないので、それはできないと言われたそうです。

これ、問題は、何で利用されていないのか、そこが問題なのに、利用されていないから駄目という。それはあり得ないと思うんですけど、当江東区の場合、様々な形で利用されているのか、いろいろな指標の問題とかもありますけれども、行政が機能しているのか、それで区民のモニターの声も引き受けながら検証していくという、こうした仕組みがあるというのは本当にすばらしいと思いますし、それがあるので、今まで培ってきた宝を生かしていけるんじゃないかと思いますので、本当にその辺のところは期待しているところで

す。

どうも今回もお世話になりました、ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。

それでは、委員お願いいたします。

○委員 本年度もどうもありがとうございました。大変お世話になりました。

今年度特に印象に残ったことを2点、お話ししたいと思います。1点目は、今、他の先生もおっしゃいましたけれども、本当に江東区が歴史も、または新しい都市空間としてもいろいろな資源を持っていて、非常に豊かで、行政の方も区民の方もとても意識が高く、かなりいろいろな意味で進んだ先進的な区なんだなということを改めて感じました。

その中で、特に今年度、これはやはり区として、区民の方の充実度、また、たくさんの資料を用意してくださった行政の皆さんに支えられて、区民モニターの方々のディスカッションが非常に有意義だったなというふうに感じました。私たちのこの委員会の中では、協働ですとかICTとかいろいろ評価しているんですけども、そもそもこの委員会、この外部評価事業自体がしっかりICTというところでZOOMにも対応し、区民の方々のディスカッションも進んでいるということで、この事業自体も前に向かっていくという取組だということで評価できるのではないかとこのように考えております。

非常に区民の方々から、ディスカッションなんかからいただいたいろいろな情報が私の評価の中では大変参考になりました、いいディスカッションができたなというふうに思っております。これが1点目です。

2点目は、今回も指標の設定の難しさということを非常に感じました。各施策の説明のときに、各御担当の方々、役所の皆さんおっしゃるのは、やはり長期計画で立てた指標というのをもともとはベースにして、今、その目標達成のために施策を展開されていると思うんですけども、これ、長期目標ということで、長期計画を出した後に社会としてコロナが発生してしまいましたので、コロナ禍の中で当初立てた長期計画に基づく指標をどのように達成させていくか、そこが非常に難しいなと思ひまして、指標なので、設定した指標は目標に向かって達成していかないといけないんですけども、このような社会的な変化とか、こういう社会状況で本当に必要なニーズに指標も柔軟に対応し得るというか、今の社会状況に合わせて本質的な計画の意義ですとか、そういうことを問い直した上でもう1回指標を設定し直せたらいいのになと思ひながら、とはいえ指標なので、中長期的なビジョンを示さないといけないという、その辺のジレンマを感じながらも、非常に有意義な

ディスカッションをさせていただいて、大変勉強になりました。今年度もどうもありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。

私からも最後に一言申し上げたいと思います。本当にまず事務局の皆さん、どうもありがとうございました。実はやっていると、江東区の魅力に取りつかれてしまうし、江東区の職員の皆さんと一緒に仕事することがすごく楽しくて、また、今回、委員の方々が、去年からですけれども替わったことによって、例えば、ある委員はジャーナリストの視点でこういうふうに物事を見るのかとか、また、別の委員はこういうふうに考えていらっしゃるのかということ、いろいろ私自身が学ぶことが多くて、こういうふう外部評価委員自身が入り替わりながら、それが私たちにとってもまたいろいろな驚きといいますか発見があって、端的に言うと、楽しい外部評価委員会だったというふうに思っておりまして、また来年、1年後やらせていただくのもすごく楽しみにしているということでございます。これは本当にひとえに事務局の皆さんと、それから、外部評価委員の皆様方、全くそれぞれ専門が違う皆さんが集まっているというチームワークだろうというふうに思っております。

その上で、実は評価というのが、今どこでも大学も評価、評価評価と言われていまして、この前、ある大手の私立大学の評価、今週ですけれども、評価委員会をやっている、今まで総長が言ったら、学部長たちみんな素直に評価をやっていたんですけども、さすがに評価疲れということで、学部の先生たちからかなり、こんなこといつまでやるんですかみたいなことが、今まではなかったんですけど、やっぱり出てまいりました。

その前後に文科省の研究所が発表した、いわゆる研究力ですね。私たちの国のいわゆる影響力のある論文、トップ1%論文というのが、中国がとうとうトップになって、日本は12位ということですね。既にベストテンから落ちてしまったと。この十数年の間に日本の研究力がどんどん低下してきているという。この背景には、実は大学も物すごく評価させられているんですね。評価し、計画をつくっていくという。計画をつくって評価してというPDCAを回すということで、かなり教職員の負担が大きくなって、それ以外の要素もたくさんあるんですが、これが研究力の低下につながっているんじゃないかというふうに私は見ておりまして、評価疲れとか、評価のための評価になってしまうというふうに思うんですね。

だけど、自己点検、評価する自分たちで、きちんと自分たちがやったことを評価し、外

部の人たちにそれを見てもらうプロセスというのは、やっぱり片方で大事だとすると、いかに評価疲れをせずに評価というものを意味のある形にするのか、あるいはK P Iとかというものを、意味のあるK P Iというのはどうすればいいのかというところを、これは私も委員長をやり始めてからずっと申し上げていることですが、どうやったらもっと楽しんで評価ができるか。でも、同時に実質化できるか。評価をどういう形にすれば、意味のある評価になるのかということ、だから、片方で楽しんで、片方で意味のあるものにするという、これをしっかり考えていただきたいと思います。

そういう意味で、A 3判の紙がいつも配られるわけですが、あれはもっと工夫していいかなと思います。あそこなんですよ。同じようなことが何回も出てきたりするんですけども、あのA 3判の紙で、区民モニターの方々もこういうことをやっているかということがしっかり分かるような、そういう努力をすることによって、恐らく職員の人たちもそれによって大きな力をつけることになると思いますので、評価というのは本当に両面あるわけですね。評価疲れという問題がある。だけど、やっぱり評価はやっていかなきゃいけない。そうすると、どういうふうにそれをうまくやっていくのか。そのうまくやるプロセスの中で、職員の人たちは、政策経営部だけじゃなくて、各部署の職員の人たちが、そういうことを通して自分自身の技を磨き、考える力、構造化する力を磨いていくという。それが恐らく職員としての能力をアップすることになるんだろう。そういうことを考えながら、引き続き評価をよりレベルの高いものに引き上げていただくようお願いしたいというふうに思っております。

本当にいつもいつもどうしようとか思いながらも、引き受けてよかったなというふうにいつも思っているのは、事務局の皆さん、それから、評価委員の皆さんたちとの楽しいやり取りがあったからだというふうに思っております。皆様に感謝申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、最後に、今日、副区長お二人が御出席いただいております。お忙しい中、御出席いただいたことを感謝申し上げます。

それでは、両副区長からそれぞれ御意見、御感想などおっしゃっていただければと思います。どちらからでも結構でございます。よろしく願いいたします。

○押田副区長 改めまして、委員の皆さんにおかれましては、本年度も評価、本当にありがとうございました。いろいろ申し上げようと思って書いてきたんですけど、先生方の意見をお聞きしていたら、そのとおりでなと思っておりますので、また本年度も自由にしゃ

べらせていただきます。

1点目、事務局についてもいろいろいつもお気を遣いいただき、温かいお言葉をいただくんですけども、私、この外部評価、全庁挙げてのことだと思っているんですけども、一番多分事務局が感じなきゃいけないのは、自分たちが成長するために、こんなお力のある先生方にお時間をいただき、生で意見が聞ける、もしくは各部各課の意見も聞きつつ時間を過ごせることについては、改めてこんな機会はないんだとっていて、今日、私の後ろに座っている方々には認識してもらいたいなというふうに思っております。

私、この外部評価、冒頭つくり上げるところから、企画課長のあたりのところから関わってまいりましたけれども、それは誰に言われたわけではなく実感したところでございまして、これに関わることによって、施策という単位、各事業についても、自分たちが、要するに査定をする側、もしくは計画をつくる側の人間がきちんと構造化の意味、それから体系化することについて理解を深めていけるチャンスだということについては、今回改めて、さんざんお褒めの言葉を頂戴しているんですけども、厳しいですが、職員にも申したいですし、先生方にそのような形でお力をいただいていることについては感謝を申し上げたいと思っております。

今回、10にわたる施策、報告書、今週初めに受け取りまして、昨日だったか、熟読をしたわけなんでございますけれども、総評にお書きいただいた内容につきましては、そのとおりだというふうに思っております。外部モニターの方の意見を拝見しますと、毎回なんですけれども、私たちが仕事をしている意味や内容や役割について、区民の方に広く理解をしていただけるような発信なり説明ができ切っていないんだなというのを毎回毎回やっぱり実感いたします。

その点、やっぱり今回の御指摘にもございましたけれども、効果的な発信、それから逆に区民の方たちからの発信をきちんと受け止める、そういった工夫が、今まで思っているんですけど、何となくできてきたななんていうところを全庁的に思っているところがあると思っております。今回の評価を拝見していて、自分自身、あぐらをかきちゃいかんなど。外部評価もそうですし、その他のことについても、大体評価されているところって、いい評価をいただくので、出来上がった感がありまして、正直申し上げると、手詰まり感を感じる場所があるんですね。この次何なんだというふうに思うために、評価で頂戴している言葉について受け止めなきゃいけないなというふうに思っております。

今回、本当に細かなところまで読ませていただきましたけれども、やはり日々、常にこ

の時期に、やはり各委員の方々の様々な御視点から、私どものやっていること、区政運営について客観的な御意見を頂戴するのは非常に重要だと思っております。逆に離れていらっしゃる先生方だからこそ、正しいというか、辛辣なというか、御意見が頂戴できているなというところで、それをどう受け止めるかというのは、私たち、とても大事だなというふうに思っております。

私は、やっぱりこの外部評価、いつも言葉一つ一つ、それから、何か背筋が伸びますし、毎年毎年自分の原点に戻ることにしているなというふうに思っております。あらゆること、出来上がってあぐらをかいてしまっただけではいけなくて、これでいいのか、これよりもっと先、それから今スピードが速うございますから、先ほどDXという言葉もございましたけれども、全くに今やっていることではないこと、一つ一つ積み重ねたことではなくて、全く違った先のほうからアプローチをして仕事を考えるということが求められているなというふうに感じております。ですから、私どもの経験だけ、経験を積み重ねて判断をして物事を進めておりますけれども、全く違うんじゃないかなど。全然違った視点でぼんと物事を進める必要があるんじゃないかなということも、半分感じているところがございます。

ただ一つ言えることは、歩みは止めちゃいけない。それから、若い職員、いろいろ見てくれるんです。また、中堅の職員も見てくれるんですけども、彼らのやはり肌で感じた上での区政運営とか、要するに仕事を進めていくところについては、こういったところを評価いただきながら、これをうちの若い職員もしくは中堅職員が読んだところで感ずる言葉を幾つも幾つも自分に受け止めて仕事をしてもらいたいなというふうに思っております。

最後におわびでございますけれども、ずっと読みますと、やはり資料について、今回、区政モニターの方、外部評価のモニターの方からも、委員の方からもございますので、今日は最後にうちの事務局の宿題でございますけれども、来年度の評価におきましては、御指摘いただいた内容について、すばらしく改善したシートが出てくるんだろうなというふうに思っております。御期待いただければと思っております。

本当に今年度、ありがとうございました。今日、お会いできるのを非常に楽しみにしておりましたし、気持ちを新たにして次に進んでまいりたいと考えてございますので、どうぞお力をいただければと思います。また来年度もどうぞよろしく願いいたします。

○委員長 副区長、どうもありがとうございました。

それじゃ、大塚副区長お願いいたします。

○大塚副区長 副区長の大塚でございます。昨年度に引き続き、吉武先生はじめ、外部評価委員の先生方については、いろいろ御尽力をいただきまして、誠にありがとうございます。

コロナ禍の中で、大変オンラインを併用した開催になりましたけれども、今回においても、今、お話を聞いている内容でいきますと、活発な議論がなされたというふうに考えてございます。委員の皆さん一人一人が様々な角度で前向きな御意見をいただいたことだというふうに考えてございます。非常に感謝をしているところでございます。

また、外部モニターの皆さんについても、区民の目線から貴重な御意見をいただきました。私たちとしては、たくさんの方の声を聞く。コロナ禍ではございますけれども、今回、こういう形でリモート、オンライン化で会議を開催して、何か聞くところによると、ふだんやはり対面でいくと参加できなかった方がいると。そういう中でこういうオンライン会議で参加をしていただいた区民の方もいるということでございますので、やはり会議の開催につきましても、今後、区民が参加しやすい手法、あるいは環境をきちんと整えていかなくちゃいけないのかなというふうに思うところでございます。

今年度につきましては、計画実現に向けた10施策について評価をいただきましたけれども、総評において、いずれの施策においてもおおむね着実に推進しつつあるという評価をいただいたことについては、今後、長期計画の施策の展開における大きなやはり推進力になっていくのかなというふうに思っております。

私のほうで1つすごく気がかりだった点につきましては、やはり先生方の内容の中で、行政の取組が十分に区民に伝わっていないだろうという形で、先生方から懸念の意見をいただいております。区政を進める上で、区民の皆さんが必要としている情報をいかに具体的に分かりやすく丁寧に発信し、区の取組等を知っていただくことが、行政のやはり果たすべき重要な役割だというふうに思います。

今回評価いただきました各施策につきましては、やはりこういう現下のコロナ禍の中の影響があるという理由だけではなくて、現在の社会環境、先ほどもお話が出ていましたけれども、社会環境、区民ニーズなどを的確に捉えて、柔軟な実施、あるいは、やはりICTなどの積極的な活用をするなど、必要な取組を改めて実施していく必要があるのかなというところで、痛感をしているところでございます。

今回、外部評価をいただいた御意見、御指摘につきましては、他の施策にも通ずるとこ

ろがあるというふうを考えているところでございます。全庁的には、区政全般の区民福祉につなげられるような形で生かしていきたいと考えているところでございます。外部評価委員の先生方につきましては、貴重な時間の中、お力添えをいただきまして、誠にありがとうございました。

私自身、感想だけちょっと申し上げますと、やはりこういう形の外部評価については、先生方の意見もちろんですけども、外部モニターの方の御意見を拝聴できる、あるいは意見をいただけるというのは行政にとって貴重な場だというふうに思っております。これをどういうふうに生かすかというのは私たちの責任でもあり、今後の江東区の未来にもつながっていく話だと考えてございます。

ぜひ、今後も先生方はじめ、区民の皆さんからいろいろな形の御意見をいただく中で、江東区の進展につなげていきたいと考えているところでございますので、引き続きお力添え、よろしく願いをいたします。ありがとうございました。

○委員長 押田副区長、大塚副区長、どうもお忙しいところ御出席いただき、また、貴重な御挨拶をいただきましたことを感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは、今日予定しておりました議題がこれで終了いたしました。本日は皆様の御協力で報告書をまとめることができました。ただ一部、先ほどの御指摘がございますので、そこは事務局と調整して、また皆様方に御報告したいと思います。

今年度につきましては、本当に委員の皆様方の御協力により、それから、事務局のサポートにより、無事、外部評価を終えることができました。コロナがもう少し落ち着いていることを願いながら、来年また御一緒に仕事をさせていただくことを楽しみにしたいというふうに思います。

以上をもちまして、第5回の外部評価委員会を終了したいと思います。

事務局のほうにお返しします。何か事務局ありますでしょうか。

○事務局 企画課長でございます。お忙しい中どうもありがとうございました。本日いただいた御意見も含めまして、今回の委員会でいただいた御意見、いろいろ考えながら、来年度の予算に向けて、これから区のほう、予算編成の時期を迎えてまいりますので、いただいた貴重な御意見、外部評価モニターの方々のもも含めまして、我々吟味しながら、来年度何をやっていくべきか、いろいろ考えていきたいと思っておりますので、本当にお忙しい中、お時間いただきまして、どうもありがとうございました。

以上でございます。

○委員長　　どうもありがとうございました。

それでは、委員は三々五々、退出してよろしいですね。先生方、どうもありがとうございました。

午後7時30分 閉会